

「土石量／距離、堆積曲線」

- 溪床堆積地の位置・形態……段丘・凸地形堆積勾配・長さ・幅・比高「堆積地数／距離、再堆積回数」
- 構成材料……礫径・構成礫・堆積層（層状・層の対比）
- 木本調査……天然生同令林分・倒木萌芽・上伸枝・不定根・アテ・樹皮損傷
「各堆積地移動年代推定、土石移動頻度回数／100年」
- 溪床地形調査……谷幅変化・勾配変化
「谷幅曲線、堆積区域と流過区域の区分」
- 時間的・距離的解析
「溪床堆積地出現間隔距離、同一年代堆積地出現間隔距離」「単位移動距離」
「移動過程図、堆積区域の移動形態、流域の移動傾向」

(14) 扇状地内の流路の移動に関する水理実験

— 富士山大沢扇状地を例として —

建設省土木研究所 田畑茂清
上坂利幸

扇状地内の流路は時間とともに移動する。

この現象を把握するために水理実験をおこなった。

移動の形態が、個々の扇状地のもつ地形条件等によって異なると考えられるので、ここでは富士山大沢扇状地をとりあげた。

模型実験は現地との縮尺比1/60、実験水路は幅1.5m、長さ35mである。

その結果、次のようなことが明らかとなった。

- 1) 扇状地内の流路は周期性をもって移動している。
- 2) 現地の流路の移動との比較によって、現地と模型との相似性について検討した。
- 3) 流路の移動機構は、上流に向かって進む砂堆と関係がある。